

適性I

400字作文に入れるネタカード

これは受験生本人が使う暗唱用です。13ネタ、39パターンを、本文に合わせて少しずつ言いかえて使います。

- 1 文章1と文章2から、人物の行動や気づきを一つずつ取る。
- 2 「記録」「失敗」「相手」「言葉」など、本文の合図に合うカードを選ぶ。
- 3 400字は、本文根拠2つ、共通点、自分の例、次にする行動の5つの箱で書く。

入っているネタ

1. 理科観察ノート

見えにくい変化を見る / 自分の問いを持つ

2. 失敗分析ノート

失敗や違和感を材料にする / 見えにくい変化を見る

3. 読書メモ

読書で経験を増やす / 言葉で関係をつくる

4. 図書委員の本紹介

言葉で関係をつくる / 他者と考える

5. 係活動の改善

手を動かして学ぶ / 失敗や違和感を材料にする

6. 班の話し合い表

他者と考える / 道具で考えを広げる

7. 発表の振り返り

失敗や違和感を材料にする / 言葉で関係をつくる

8. ポスター・掲示づくり

言葉で関係をつくる / 手を動かして学ぶ

9. 友達とのすれ違い

言葉で関係をつくる / 他者と考える

10. 自由研究・試作品づくり

手を動かして学ぶ / 自分の問いを持つ

11. 掃除・当番活動の改善

手を動かして学ぶ / 他者と考える

12. 行事準備の役割分担

他者と考える / 言葉で関係をつくる

13. バスケ練習ノート

失敗や違和感を材料にする / 見えにくい変化を見る

理科観察ノート

見えにくい変化を見る

自分の問いを持つ

道具で考えを広げる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 記録 / 変化 / 比べる / 原因 / 次に試す

どんな本文で使う？

観察、記録、前後比較、小さな変化、原因を確かめる場面。文章に「同じ形で残す」「比べる」「次に試す」が出たら使う。

使わないとき

友情、読書、言葉の働きが中心で、記録や比較の根拠が本文にないとき。

まず覚える文

このことから、私は学びを深めるには、ただ経験を増やすだけでなく、同じ形で記録し、変化の理由を考えることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

本文理解、抽象化、学校生活の具体手順が一つにつながる。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも「残す、比べる、次に試す」をしている問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、記録を残すことで、すぐには見えない変化を比べ、次の行動を考えている点だ。私も理科の観察で同じ形の記録を続け、前後の違いから次に試すことを決めたい。

2. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 人物が最初は気づかなかったが、記録で考えが変わる問題。

使う文: 本文の人物は、初めは変化を感想で見ていたが、記録を比べることで原因を考えるようになった。私も観察ノートを、ただ書くものではなく、次の工夫を決める道具として使いたい。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 「学校生活でどう生かすか」と聞かれる400字作文。

使う文: 私は、葉の様子や水をあげた時刻を同じ表に残し、前の日と比べる。そうすることで、感覚だけで決めず、根拠をもって次の世話の仕方を変えられる。

400字の後半に入れる文

私もこの考えを、理科の観察や係活動に生かしたい。たとえば植物を育てるとき、葉の様子を「元気だった」「しおれた」と感想で書くだけでは、何が原因か分からない。そこで、天気、水をあげた時刻、置いた場所を同じ表に残し、前の日との違いを比べたい。そうすれば、小さな変化を見逃さず、次に水の量や置き場所をどう変えるかを自分で考えられる。本文で示されていたように、記録は出来事を残すだけでなく、見えにくい変化を見つけ、次の工夫を生み出す道具になると考える。

理科観察ノートで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、気づいたことをその場の感想で終わらせず、記録として残し、前後を比べて次の行動を選んでいる点だ。

4. 自分の例

私も、理科観察ノートを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

記録を同じ形で残し、前後を比べて、次に変える行動まで決める。

穴埋めで声に出す

1. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも「残す、比べる、次に試す」をしている問題。

二つの文章に共通するのは、記録を残すことで、____を比べ、____だ。____を続け、____を決めた
い。

答え: 私も理科の観察で同じ形の記録 / 前後の違いから次に試すこと / 次の行動を考えている点 / すぐには見えない変化

2. 変化強調型の穴埋め

人物が最初は気づかなかったが、記録で考えが変わる問題。

本文の人物は、____を感想で見えていたが、____るようになった。私も観察ノートを、ただ書くものではなく、
____を決める道具として使いたい。

答え: 記録を比べることで原因を考え / 初めは変化 / 次の工夫

3. 自分の行動型の穴埋め

「学校生活でどう生かすか」と聞かれる400字作文。

私は、葉の様____に残し、____と比べる。____で、感覚だけで決めず、____を変えられる。

答え: 子や水をあげた時刻を同じ表 / 根拠をもって次の世話の仕方 / そうすること / 前の日

弱い文を強い文にする

弱い: 記録を続けて、もっとよく観察したいです。

強い: 記録を同じ形で残し、前後を比べて、次に変える行動まで決める。

言いかえ表

理科の観察	漢字練習 / 係活動 / 読書記録
葉の様子	間違えた字 / 友達の反応 / 読後の考え
天気、水をあげた時刻、置いた場所	日付、原因、直し方 / 相手の言葉、場面、気持ち
水の量や置き場所	練習方法 / 伝え方 / 本の選び方

失敗分析ノート

失敗や違和感を材料にする

見えにくい変化を見る

自分を育てる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 失敗 / 違和感 / 原因 / 直す / 次の工夫

どんな本文で使う？

失敗、違和感、うまくいかない原因、やり直し、方法の変更が出る文章。

使わないとき

単なる努力や継続が主題で、失敗の原因分析が本文にないとき。

まず覚える文

このことから、私は失敗を反省だけで終わらせず、原因を一つにしぼり、次に試す行動まで決めることが成長につながると考えた。

点が入りやすいところ

根性論に逃げず、失敗を分析する手順まで書けている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも失敗を原因と次の方法に分けている問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、失敗をただ反省するのではなく、原因を見つけ、次に試す方法を具体的にしている点だ。

2. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 人物が「失敗=だめなこと」から「失敗=材料」へ変わる問題。

使う文: 本文の人物は、初めは失敗を悪い結果として受け止めていたが、原因を見直すことで、次の工夫を見つける材料だと考えるようになった。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 作文、発表、活動の改善に転用する問題。

使う文: 私も作文で点が伸びないとき、全部を直そうとせず、根拠が足りないのか、具体例が弱いのかを一つにしぼって次の答案で直したい。

400字の後半に入れる文

私も作文や発表でうまくいかなかったとき、ただ「次はがんばる」と考えるだけで終わらせないようにしたい。たとえば作文で点が伸びなかったら、文章全体を直そうとする前に、本文の根拠が足りないのか、自分の体験が抽象的なのかを一つ選んで見直す。発表なら、声の大きさではなく、聞き手に伝わらなかった理由を記録する。失敗を細かく分けることで、次に直す場所がはっきりする。本文のように、うまくいかなかったことを原因と方法に分けて考えれば、失敗は自分を責める材料ではなく、次の工夫を見つける手がかりになる。

失敗分析ノートで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、失敗を悪い結果として片づけず、どこでずれたのかを見直して、次の方法を具体的に変えている。

4. 自分の例

私も、失敗分析ノートを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

失敗を原因と次の方法に分け、直す場所を一つ決める。

穴埋めで声に出す

1. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも失敗を原因と次の方法に分けている問題。

二つの文章に____のは、____をただ反省するのではなく、原因を見つけ、____だ。

答え: を具体的にしている点 / 次に試す方法 / 共通する / 失敗

2. 変化強調型の穴埋め

人物が「失敗=だめなこと」から「失敗=材料」へ変わる問題。

本文の人物は、____失敗を悪い結果として受け止めていたが、____で、____るようになった。

答え: を見つける材料だと考え / 原因を見直すこと / 次の工夫 / 初めは

3. 自分の行動型の穴埋め

作文、発表、活動の改善に転用する問題。

____が伸びないとき、全部を直そうとせず、____のか、____のかを____次の答案で直したい。

答え: 根拠が足りない / 一つにしばって / 具体例が弱い / 私も作文で点

弱い文を強い文にする

弱い: 失敗してもあきらめずにがんばりたいです。

強い: 失敗を原因と次の方法に分け、直す場所を一つ決める。

言いかえ表

作文や発表	工作 / 班活動 / 計算練習
本文の根拠	説明の順番 / 線の引き方 / 役割分担
自分の体験	聞き手の反応 / 友達の意見 / 間違い方
次に直す場所	次に試す方法 / 次に見る点

読書メモ

読書で経験を増やす

言葉で関係をつくる

自分を育てる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 本 / 言葉 / 経験 / 置き換える / 視点

どんな本文で使う？

本、物語、筆者の言葉、登場人物の選択、自分と違う経験に出会う文章。

使わないとき

本の紹介活動や相手への伝え方が中心なら「図書委員の本紹介」を使う。

まず覚える文

このことから、私は読書をあらすじの理解で終わらせず、心に残った言葉^①を自分の生活に置き換えて考えることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

読書量ではなく、本文内容を自分の行動へ転用している。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 基本型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 本や言葉が自分の経験や見方を広げる問題。

使う文: 本文から分かるのは、本や言葉は知識を増やすだけでなく、自分の経験を別の角度から見直すきっかけになるということだ。

2. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ちが大事なときに使う。

このお題なら: 登場人物、筆者、友達など自分と違う見方に出会う問題。

使う文: 本の中の人物や筆者の考えにふれることで、自分だけでは思いつかなかった見方に出会える。私は心に残った一文を、自分ならどう行動するかに置き換えたい。

3. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 読む前と読んだ後で考えが変わる問題。

使う文: 読む前は自分の経験だけで考えていたが、登場人物の選択を知ることで、自分の行動を見直せるようになる。

400字の後半に入れる文

私も本^②を読むとき、内容を覚えるだけでなく、自分の学校生活に置き換えて考えたい。たとえば登場人物が友達に謝る場面を読んだら、「自分ならどう言うか」「相手は何を聞きたいか」を読書メモに一文で残す。そうすれば、物語の中の出来事を自分と関係のない話にせず、友達とすれ違ったときの言葉^③の選び方に生かせる。本文^④で述べられているように、読書は自分が経験^⑤していない場面を想像する力をくれる。だから私は、読んだ後に一つだけ行動を変えるところまで考え、読書を自分の判断を広げる時間にしたい。

読書メモで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、本や言葉は知識を増やすだけでなく、自分の経験を別の角度から見直すきっかけになるということだ。

4. 自分の例

私も、読書メモを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

読んだ内容を自分の場面に置き換え、次の言葉や行動を一つ変える。

穴埋めで声に出す

1. 基本型の穴埋め

本や言葉が自分の経験や見方を広げる問題。

本文から分かるのは、_____は知識を増やすだけでなく、自分の_____を別の角度から見_____だ。

答え: 直すきっかけになるということ / 本や言葉 / 経験

2. 他者差解型の穴埋め

登場人物、筆者、友達など自分と違う見方に出会う問題。

_____で、自分だけでは思いつかなかった見方に出会える。私は心に残った一文を、_____するかに置き換えたい。

答え: 本の中の人物や筆者の考え / 自分ならどう行動 / にふれること

3. 変化強調型の穴埋め

読む前と読んだ後で考えが変わる問題。

_____ていたが、_____で、_____を見直せるようになる。

答え: 読む前は自分の経験だけで考え / 登場人物の選択を知ること / 自分の行動

弱い文を強い文にする

弱い: 本をたくさん読んで知識を増やしたいです。

強い: 読んだ内容を自分の場面に置き換え、次の言葉や行動を一つ変える。

言いかえ表

本を読むとき	説明文を読むとき / 伝記を読むとき / 新聞記事を読むとき
登場人物が友達に謝る場面	筆者の考え / 主人公の選択 / 心に残った一文
友達とすれ違ったとき	班で意見が合わないとき / 発表で伝えるとき
一つだけ行動を変える	言葉を選び直す / 見方を変える

図書委員の本紹介

言葉で関係をつくる

他者と考える

読書で経験を増やす

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 相手 / 紹介 / 言葉 / 選ぶ / つなぐ

どんな本文で使う？

相手に届く言葉、紹介、伝える工夫、人と情報をつなぐ場面。

使わないとき

読書による自己成長が中心で、相手に伝える場面がないとき。

まず覚える文

このことから、私は言葉を使うとき、自分が伝えたいことだけでなく、相手が受け取りやすい形に整えることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

相手意識、言葉の選択、具体行動が入っている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ちが必要なときに使う。

このお題なら: 相手の好み、目的、受け取り方を考える問題。

使う文: 自分がすすめたい本ではなく、相手が何を求めているかを考えることで、本と人をつなぐ言葉を選ぶ。

2. 言葉の働き型

言葉の働きを説明する型

短い言葉、紹介文、伝え方が人を動かすときに使う。

このお題なら: 短い言葉や紹介文が相手を動かす問題。

使う文: 紹介文は本の内容を説明するだけでなく、相手が手に取りたくなるきっかけを作る言葉として働く。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 図書委員、係活動、掲示へ転用する問題。

使う文: 私は友達の希望を短くメモし、その言葉に合う紹介文を考えることで、相手に届く本のすすめ方をしたい。

400字の後半に入れる文

私も図書委員として本を紹介するとき、自分が好きな本を目立たせるだけで終わらせないようにしたい。まず、友達が「短く読める本がいい」「少しこわい話が読みたい」などと言った言葉をメモする。次に、その言葉をもとに、本の内容を一文で表す紹介文を考える。最後に、相手が手に取りたくなるように、結末ではなく読む前の期待がふくらむ言葉を選ぶ。本文のように、相手の立場から言葉を選ぶことで、本を紹介する活動は、単に情報を伝えるだけでなく、人と本をつなぐ働きを持つと考える。

図書委員の本紹介で400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、自分の好みを押しつけるのではなく、相手が何を求めているかを考えて、届く言葉を選んでる。

4. 自分の例

私も、図書委員の本紹介を使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

相手の言葉を受け止め、相手が動きたくなる一文に変える。

穴埋めで声に出す

1. 他者差解型の穴埋め

相手の好み、目的、受け取り方を考える問題。

自分がすすめたい本ではなく、____ることで、____を選べる。

答え: 相手が何を求めているかを考え / 本と人をつなぐ言葉

2. 言葉の働き型の穴埋め

短い言葉や紹介文が相手を動かす問題。

____文は本の内容を説明するだけでなく、____が手に取____として働く。

答え: りたくなるきっかけを作る言葉 / 相手 / 紹介

3. 自分の行動型の穴埋め

図書委員、係活動、掲示へ転用する問題。

私は友達の希望を短くメモし、____ることで、____に届く本のすすめ方をしたい。

答え: その言葉に合う紹介文を考え / 相手

弱い文を強い文にする

弱い: おすすめの本を分かりやすく紹介したいです。

強い: 相手の言葉を受け止め、相手が動きたくなる一文に変える。

言いかえ表

図書委員として本を紹介	係活動で説明 / 掲示で知らせる / 発表で伝える
友達が言った言葉	相手の困りごと / 聞き手の反応 / 読む人の目的
本の内容を一文で表す紹介文	短い見出し / 声かけ / 説明の順番
人と本	人と情報 / 気持ちと行動 / 考えと方法

係活動の改善

手を動かして学ぶ

失敗や違和感を材料にする

他者と考える

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 係 / 困る / 改善 / 順番 / 続ける

どんな本文で使う？

係、当番、仕事の流れ、工夫、困りごとを改善する文章。

使わないとき

個人の読書、心情、言葉選びだけが主題のとき。

まず覚える文

このことから、私は活動をよくするには、気持ちだけで協力するのではなく、**困った場面**を具体的に見つけ、**やり方を変える**ことが必要だと考えた。

点が入りやすいところ

協力という抽象語を、観察できる行動に落としている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 基本型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 活動のやり方を見直しで改善する問題。

使う文: 活動をよくするには、気持ちだけで協力を求めるのではなく、困った場面を具体的に見つけ、やり方を変えることが必要だ。

2. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 人物が人のせいから仕組みの見直しへ変わる問題。

使う文: 本文の人物は、うまくいかない原因を人のせいにせず、作業の順番や分担を見直すことで改善しようとしている。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 係、当番、行事準備に生かす問題。

使う文: 私は係活動で困ったら、作業を小さく分け、どこで時間がかかるかを見てから、分担や道具の置き方を変えたい。

400字の後半に入れる文

私も**係**活動で仕事がうまく進まないとき、ただ「みんなで協力しよう」と言うだけで終わらせないようにしたい。たとえば掲示**係**で準備が遅れるなら、誰が悪いかを決める前に、紙を切る、文字を書く、貼るという作業の順番を見直す。次に、時間がかかっている作業の一つを選び、**分担**や**道具の置き方**を変えて試す。最後に、前より早くできたか、見やすくなったかを記録する。本文で示されていたように、活動の**改善**は気合いではなく、**困った場面**を見える形にし、方法を少しずつ変えることから始まると考える。

係活動の改善で400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、困ったことを人のせいにせず、仕事の流れや方法を見直して、続けられる形に変えている。

4. 自分の例

私も、係活動の改善を使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

困った場面を作業の流れに分け、変える場所を一つ決める。

穴埋めで声に出す

1. 基本型の穴埋め

活動のやり方を見直して改善する問題。

活動をよくするには、気持ちだけで協力を求めるのではなく、_____を具体的に見つけ、_____が必要だ。

答え: やり方を変えること / 困った場面

2. 変化強調型の穴埋め

人物が人のせいから仕組みの見直しへ変わる問題。

本文の人物は、_____を人のせいにせず、_____で_____しようとしている。

答え: 作業の順番や分担を見直すこと / うまくいかない原因 / 改善

3. 自分の行動型の穴埋め

係、当番、行事準備に生かす問題。

_____で困ったら、作業を小さく分け、どこで時間がかかるかを見てから、_____や_____を変えたい。

答え: 道具の置き方 / 私は係活動 / 分担

弱い文を強い文にする

弱い: 係活動をもっとがんばりたいです。

強い: 困った場面を作業の流れに分け、変える場所を一つ決める。

言いかえ表

係活動	掃除当番 / 給食当番 / 行事準備
掲示係	図書係 / 飼育係 / 班活動
作業の順番	役割分担 / 声かけ / 道具の置き場所
前より早くできたか	相手に伝わったか / 続けやすくなったか

班の話し合い表

他者と考える

道具で考えを広げる

言葉で関係をつくる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 意見 / 理由 / 整理 / 同じ点 / 違う点

どんな本文で使う？

話し合い、友達の意見、同じ点と違う点、別の見方、合意形成が出る文章。

使わないとき

一人で観察・記録・制作する文章で、他者の意見が主題でないとき。

まず覚える文

このことから、私は話し合いでは、早く結論を出すよりも、意見の同じ点と違う点を見える形にすることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

他者理解が感想でなく、整理の手順として書けている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ちが必要なときに使う。

このお題なら: 友達の意見から自分にはない見方を得る問題。

使う文: 他者の意見を聞くことで、自分だけでは見えなかった理由や条件に気づき、考えを広げることができる。

2. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも意見を整理している問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、意見をそのまま並べるのではなく、同じ点と違う点を整理して、よりよい方法を選んでいる点だ。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 班活動や学級会へ転用する問題。

使う文: 私は話し合いで意見が分かれたら、すぐ多数決にせず、理由を表にして共通の目的を探したい。

400字の後半に入れる文

私も班の話し合いで意見が分かれたとき、すぐ多数決にせず、理由を整理してから考えたい。まず、一人一人の意見を短く書き、次に「目的が同じ意見」「困っている点が違う意見」に分ける。すると、反対に見えた考えでも、実は同じ目的を持っていることに気づける。最後に、その共通の目的に合う方法を選べば、だれかの意見を消すのではなく、考えを組み合わせられる。本文のように、他者の考えを整理することは、単なる協力ではなく、自分の考えを広げ、よりよい判断に近づくための方法だと考える。

班の話し合い表で400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、意見の数だけで決めず、それぞれの理由を整理して、自分だけでは見えなかった条件に気づいている。

4. 自分の例

私も、班の話し合い表を使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

意見を理由で分け、共通の目的を見つけて案を組み合わせる。

穴埋めで声に出す

1. 他者差解型の穴埋め

友達の見解から自分にはない見方を得る問題。

____で、____や____に気づき、____ができる。

答え: 自分だけでは見えなかった理由 / 他者の意見を聞くこと / 考えを広げること / 条件

2. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも意見を整理している問題。

二つの文章に____のは、____をそのまま並べるのではなく、____を整理して、____だ。

答え: よりよい方法を選んでいる点 / 同じ点と違う点 / 共通する / 意見

3. 自分の行動型の穴埋め

班活動や学級会へ転用する問題。

____が分かれたら、すぐ____にせず、____を探したい。

答え: 理由を表にして共通の目的 / 私は話し合いで意見 / 多数決

弱い文を強い文にする

弱い: 友達の意見を聞いて協力したいです。

強い: 意見を理由で分け、共通の目的を見つけて案を組み合わせる。

言いかえ表

班の話し合い	委員会 / 学級会 / 行事準備
目的が同じ意見	理由が似ている意見 / 条件が違う意見
困っている点	大切にしたい点 / 心配している点
共通の目的に合う方法	納得できる案 / 新しい組み合わせ

発表の振り返り

失敗や違和感を材料にする

言葉で関係をつくる

見えにくい変化を見る

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 発表 / 伝わる / 聞き手 / 振り返る / 改善

どんな本文で使う？

伝える、聞き手、発表、言葉の届け方、相手の反応を見て直す文章。

使わないとき

相手への伝達ではなく、観察や実験の条件変更が主題のとき。

まず覚える文

このことから、私は表現をよくするには、自分が話した量ではなく、聞き手に何が伝わったかを基準に振り返ることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

自己満足ではなく、受け手基準で改善を書けている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 自分中心の発表から聞き手中心の発表へ変わる問題。

使う文: 本文の人物は、自分が話したかどうかではなく、相手にどう届いたかを基準に伝え方を見直している。

2. 言葉の働き型

言葉の働きを説明する型

短い言葉、紹介文、伝え方が人を動かすときに使う。

このお題なら: 伝える、届く、言い換える、相手の反応が出る問題。

使う文: 言葉は出せば終わりではなく、相手に届いて初めて働く。だから聞き手の反応を見て、順番や根拠を変える必要がある。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 発表、作文、スピーチへ転用する問題。

使う文: 私は発表後に、声の大きさだけでなく、説明の順番や根拠の出し方を振り返り、次の発表で一つ直したい。

400字の後半に入れる文

私も発表の後、うまく話せたかどうかだけで判断しないようにしたい。たとえば聞き手が途中で分かりにくそうにしていたら、声の大きさだけでなく、説明の順番や根拠の出し方を振り返る。次の発表では、最初に結論を一文で示し、その後に理由と具体例を分けて話す。また、聞き手の表情を見て、必要なら言い換える。本文で示されていたように、言葉は自分が出せば終わりではなく、相手に届いて初めて働く。だから私は、発表を相手の反応から見直し、伝え方を具体的に変える力をつけたい。

発表の振り返りで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、結果だけを見て終わらず、相手にどう届いたかを見直して、次の伝え方を変えている。

4. 自分の例

私も、発表の振り返りを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

聞き手に何が伝わったかを基準に、説明の順番や根拠を直す。

穴埋めで声に出す

1. 変化強調型の穴埋め

自分中心の発表から聞き手中心の発表へ変わる問題。

本文の人物は、自分が話したかどうかではなく、____にどう届いたかを基準に伝え方を____ている。

答え: 見直し / 相手

2. 言葉の働き型の穴埋め

伝える、届く、言い換える、相手の反応が出る問題。

言葉は出せば終わりではなく、____に届いて初めて働く。だから____を見て、____を____必要がある。

答え: 聞き手の反応 / 順番や根拠 / 変える / 相手

3. 自分の行動型の穴埋め

発表、作文、スピーチへ転用する問題。

____後に、声の大きさだけでなく、____の出し方を振り返り、____で一つ直したい。

答え: 説明の順番や根拠 / 私は発表 / 次の発表

弱い文を強い文にする

弱い: 次の発表は上手にしたいです。

強い: 聞き手に何が伝わったかを基準に、説明の順番や根拠を直す。

言いかえ表

発表	音読 / スピーチ / 作文
聞き手	読み手 / 友達 / 先生
説明の順番や根拠の出し方	声の強弱 / 例の選び方 / 書き出し
言い換える	例を足す / 間を取る / 順番を変える

ポスター・掲示づくり

言葉で関係をつくる

手を動かして学ぶ

道具で考えを広げる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 掲示 / 短い言葉 / 目的 / 相手 / 試す

どんな本文で使う？

短い言葉、見出し、目的、見る人、行動を促す表現が出る文章。

使わないとき

長く考えを深める読書や、失敗分析そのものが主題のとき。

まず覚える文

このことから、私は表現では、情報を並べるだけでなく、**目的**に合う言葉を選び、**相手**の行動につながる形にすることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

目的、相手、表現手段がそろい、答案に厚みが出る。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 基本型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 目的に合う表現や見出しを選ぶ問題。

使う文: 表現では、情報をたくさん並べるだけでなく、相手に何をしてほしいかに合う言葉を選ぶことが大切だ。

2. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ちが大事なときに使う。

このお題なら: 見る人、読む人、聞く人の立場を考える問題。

使う文: 見る人の立場から考えると、短い言葉や見出しは、行動するきっかけを作る役割を持つ。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 掲示、発表資料、本紹介カードへ転用する問題。

使う文: 私は掲示を作るとき、目的を一つにしぼり、遠くから見ても次に何をすればよいか分かる言葉を選びたい。

400字の後半に入れる文

私もポスターや**掲示**を作るとき、文字を増やして説明するだけで終わらせないようにしたい。まず、見る人に何をしてほしいのかを一つにしぼる。次に、その**目的**に合う**見出し**を三つほど考え、友達にどれが一番伝わるか聞いてみる。さらに、遠くから見ても読めるか、見る人が次に何をすればよいか分かるかを確認する。本文のように、表現は自分の考えを出すだけでなく、**相手**の行動を助けるためにある。だから私は、**目的**、言葉、見え方を結びつけて、伝わる**掲示**を作りたい。

ポスター・掲示づくりで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、たくさん説明するより、相手に何を感じてほしいかを考えて、言葉や形を選んでいる。

4. 自分の例

私も、ポスター・掲示づくりを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

目的を一つにしぼり、相手の行動につながる言葉と見え方を選ぶ。

穴埋めで声に出す

1. 基本型の穴埋め

目的に合う表現や見出しを選ぶ問題。

表現では、情報をたくさん並べるだけでなく、_____が大切だ。

答え: 何をしてほしいかに合う言葉 / 選ぶこと / 相手

2. 他者差解型の穴埋め

見る人、読む人、聞く人の立場を考える問題。

_____ると、_____や_____は、行動するきっかけを作る_____を持つ。

答え: 見る人の立場から考え / 短い言葉 / 見出し / 役割

3. 自分の行動型の穴埋め

掲示、発表資料、本紹介カードへ転用する問題。

私は_____を作るとき、_____を一つにしぼり、遠くから見ても次_____を選びたい。

答え: 何をすればよいか分かる言葉 / 掲示 / 目的 / 次に

弱い文を強い文にする

弱い: 分かりやすいポスターを作りたいです。

強い: 目的を一つにしぼり、相手の行動につながる言葉と見え方を選ぶ。

言いかえ表

ポスターや掲示	本紹介カード / 発表資料 / 呼びかけ文
見る人	聞く人 / 読む人 / 参加する人
見出し	一文 / タイトル / 声かけ
遠くから見ても読めるか	短く言えているか / 行動が分かるか

友達とのすれ違い

言葉で関係をつくる

他者と考える

自分を育てる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 気持ち / 相手 / 受け止める / 言葉 / 立場

どんな本文で使う？

相手の立場、気持ち、受け止める言葉、誤解、関係を直す場面。

使わないとき

本文が観察、制作、記録中心で、人間関係の根拠が薄いとき。

まず覚える文

このことから、私は人と関わる時、正しいことを言うだけでなく、**相手**が受け止められる順番と言葉を考えることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

道徳的な一般論でなく、対話の順番まで具体化している。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ちが大変なときに使う。

このお題なら: 相手の立場や理由を考える問題。

使う文: 自分の気持ちだけで判断せず、相手の理由を考えることで、責める言葉ではなく関係を直す言葉を選ぶ。

2. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 決めつけから受け止めへ考えが変わる問題。

使う文: 本文の人物は、初めは自分の気持ちで相手を見ていたが、相手の事情を知ることによって言葉の選び方を変えている。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 友達、班活動、注意の仕方へ転用する問題。

使う文: 私はすれ違いが起きたら、自分が困ったこと、相手に聞きたいこと、次のお願いを分けて伝えたい。

400字の後半に入れる文

私も友達とすれ違ったとき、すぐに「**相手**が悪い」と決めつけないようにしたい。まず、自分がいやだったことを一文で整理し、次に**相手**にはどんな理由や事情があったのかを聞く。その上で、「なぜ困ったのか」と「次はどうしたいのか」を分けて伝える。そうすれば、**責める言葉**ではなく、関係を直すための言葉を選ぶ。本文で示されていたように、言葉は**相手**を動かすためだけでなく、**相手の気持ち**を受け止め、自分の考えも伝えるためにある。だから私は、感情をそのままぶつけず、**相手**ともう一度考え合える言葉を選びたい。

友達とのすれ違いで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、自分の気持ちだけで相手を決めつけず、相手の立場や理由を想像して言葉を選んでいる。

4. 自分の例

私も、友達とのすれ違いを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

感情、相手の理由、次のお願いを分けて伝える。

穴埋めで声に出す

1. 他者差解型の穴埋め

相手の立場や理由を考える問題。

自分の____だけで判断せず、____で、____を選べる。

答え: 相手の理由を考えること / ではなく関係を直す言葉 / 責める言葉 / 気持ち

2. 変化強調型の穴埋め

決めつけから受け止めへ考えが変わる問題。

本文の人物は、____を見ていたが、____の選び方を変えている。

答え: 相手の事情を知ること / 初めは自分の気持ちで相手 / 言葉の選び方

3. 自分の行動型の穴埋め

友達、班活動、注意の仕方へ転用する問題。

私はすれ違いが起きたら、____、____、次のお願いを分けて伝えたい。

答え: 相手に聞きたいこと / 自分が困ったこと

弱い文を強い文にする

弱い: 友達にやさしくしたいです。

強い: 感情、相手の理由、次のお願いを分けて伝える。

言いかえ表

友達とすれ違ったとき	班で意見が合わないとき / 注意するとき / 係で困ったとき
理由や事情	目的 / 心配していること / 困っている点
なぜ困ったのか	自分の考え / 相手に聞きたいこと
次はどうしたいのか	お願い / 提案 / 相談したいこと

自由研究・試作品づくり

手を動かして学ぶ

自分の問いを持つ

失敗や違和感を材料にする

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 試す / 仮説 / 材料 / 条件 / 確かめる

どんな本文で使う?

試す、仮説、材料、条件、試作品、手を動かして確かめる文章。

使わないとき

相手に伝える言葉や読書の視点変化が中心のとき。

まず覚える文

このことから、私は問いを解決するには、最初から正解を求めるより、**仮説**を立て、**小さく試し**て確かめることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

試行錯誤を、条件制御と根拠のある改善として書けている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 思いつきから根拠ある工夫へ変わる問題。

使う文: 本文の人物は、頭の中で考えるだけでなく、小さく試し、結果を見て条件や方法を変えている。

2. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも試行錯誤で考えを深める問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、小さく試し、結果を確かめながら、次の方法を選んでいる点だ。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 理科、図工、自由研究へ転用する問題。

使う文: 私は条件を一つだけ変えて試し、結果を記録してから、次に変える方法を決めたい。

400字の後半に入れる文

私も自由研究や作品づくりでは、完成させることだけを急がないようにしたい。たとえば紙飛行機の飛び方を調べるなら、ただ何度も飛ばすのではなく、紙の大きさ、折り方、投げる強さのうち一つだけ条件を変える。**結果を記録**し、なぜ長く飛んだのかを考えてから次を**試す**。作品づくりでも、最初に小さな試作品を作り、形や材料の弱いところを見つけて直す。本文のように、手を動かして確かめることで、考えはただの思いつきではなく、根拠のある工夫になると考える。

自由研究・試作品づくりで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、頭の中で考えるだけでなく、小さく試し、結果を見て条件や方法を変えている。

4. 自分の例

私も、自由研究・試作品づくりを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

条件を一つだけ変え、結果を記録して、次の仮説につなげる。

穴埋めで声に出す

1. 変化強調型の穴埋め

思いつきから根拠ある工夫へ変わる問題。

本文の人物は、____るだけでなく、____、____を変えている。

答え: 結果を見て条件や方法 / 頭の中で考え / 小さく試し

2. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも試行錯誤で考えを深める問題。

二つの文章に____のは、____、結果を確かめながら、____だ。

答え: 次の方法を選んでいる点 / 小さく試し / 共通する

3. 自分の行動型の穴埋め

理科、図工、自由研究へ転用する問題。

____を一つだけ変えて____、____してから、____を決めたい。

答え: 次に変える方法 / 結果を記録 / 私は条件 / 試し

弱い文を強い文にする

言い換え表

弱い: よい作品を作るために何度も試したいです。

強い: 条件を一つだけ変え、結果を記録して、次の仮説につなげる。

自由研究や作品づくり	理科実験 / 図工 / 掲示づくり
紙の大きさ、折り方、投げる強さ	水の量、置き場所、時間 / 材料、形、順番
長く飛んだ	変化した / 伝わった / 使いやすくなった
根拠のある工夫	次の仮説 / 改善点 / 新しい方法

掃除・当番活動の改善

手を動かして学ぶ

他者と考える

失敗や違和感を材料にする

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 役割 / 分担 / 困る / 流れ / 続ける

どんな本文で使う？

集団活動、分担、順番、道具、動きやすさ、仕組みの改善が出る文章。

使わないとき

個人の内面変化だけが問われ、集団活動の根拠がないとき。

まず覚える文

このことから、私は **集団の活動** では、気持ちだけで協力を求めるのではなく、**役割** や順番を見えるようにすることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

集団活動を、精神論ではなく構造改善として書ける。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 基本型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 集団活動の流れや仕組みを直す問題。

使う文: 集団の活動では、努力を増やすだけでなく、役割や順番を見えるようにして、動きやすい仕組みに変えることが大切だ。

2. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも分担や流れを見直す問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、活動の流れを見直し、困りごとが起きる場所を具体的にしている点だ。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら: 掃除、給食、係、行事準備へ転用する問題。

使う文: 私は準備、作業、片づけのどこで時間がかかるかを書き出し、分担や道具の置き方を変えたい。

400字の後半に入れる文

私も掃除や当番活動でうまく進まないとき、ただ急いだり注意したりするだけで終わらせないようにしたい。まず、準備、作業、片づけのどこで時間がかかっているのかを短く書き出す。次に、同じ人に仕事が集まっていないか、道具の置き場所が分かりにくくないかを友達と確認する。最後に、**分担表**や**道具の置き方**を変え、次の日に続けやすくなったかを見る。本文のように、活動をよくするには、努力を増やすだけでなく、困りごとが起こる仕組みを見直すことが必要だと考える。

掃除・当番活動の改善で400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、目立つ結果だけでなく、活動の流れを見直して、みんなが動きやすい仕組みに変えている。

4. 自分の例

私も、掃除・当番活動の改善を使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

活動の流れを分け、困りごとが起こる仕組みを見直す。

穴埋めで声に出す

1. 基本型の穴埋め

集団活動の流れや仕組みを直す問題。

____では、努力を増やすだけでなく、____や順番を見えるようにして、____が大切だ。

答え: 動きやすい仕組みに変えること / 集団の活動 / 役割

2. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも分担や流れを見直す問題。

二つの文章に____のは、活動の____を____、困りごとが起き____だ。

答え: る場所を具体的にしている点 / 共通する / 見直し / 流れ

3. 自分の行動型の穴埋め

掃除、給食、係、行事準備へ転用する問題。

私は準備、作業、片づけのどこで時間がかかるかを書き出し、____や____を変えたい。

答え: 道具の置き方 / 分担

弱い文を強い文にする

弱い: みんなで協力して掃除したいです。

強い: 活動の流れを分け、困りごとが起こる仕組みを見直す。

言いかえ表

掃除や当番活動	給食当番 / 係活動 / 行事準備
準備、作業、片づけ	話し合い、決定、実行 / 説明、練習、本番
道具の置き場所	声かけ / 順番 / 表の書き方
続けやすくなったか	早くなったか / 分かりやすくなったか / 納得できたか

行事準備の役割分担

他者と考える

言葉で関係をつくる

道具で考えを広げる

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 目的 / 役割 / 相談 / 条件 / 納得

どんな本文で使う？

目的、役割、希望、得意なこと、条件整理、納得できる
分担が出る文章。

使わないとき

一人で完結する観察や読書の文章で、役割分担の要素が
ないとき。

まず覚える文

このことから、私は行事や班活動では、だれがやりたい
だけでなく、**目的**に合う**役割**を考えることが大切だ
と考えた。

点が入りやすいところ

公平さ、目的、具体的な分担方法がそろっている。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 他者差解型

相手の立場や考えを見る型

友達、読み手、聞き手、相手の気持ち
が大事なときに使う。

このお題なら: 希望、得意なこと、不
安、役割を整理する問題。

使う文: 役割を決めるときは、希望だ
けだけでなく、目的や得意なことを整理す
ると、納得できる分担に近づく。

2. 基本型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで
書くときに使う。

このお題なら: 目的に合う方法を選ぶ
問題。

使う文: よい分担は仲よくするためだ
けではなく、一人一人の力を生かして
全体の目的に近づくためにある。

3. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで
書くときに使う。

このお題なら: 行事、委員会、班活動
へ転用する問題。

使う文: 私は必要な仕事を分け、友達
の希望と得意なことを聞き、目的に合
う役割分担を表で確かめたい。

400字の後半に入れる文

私も行事準備で**役割**を決めるとき、声の大きい人や先に手を挙げた人だけで決めないようにしたい。まず、必要な仕事を「準備する」「伝える」「確認する」のように分ける。次に、友達の希望だけでなく、得意なことや不安なことも聞く。最後に、行事の**目的**に合っているか、仕事が一人にかたよっていないかを表で確かめる。本文で示されていたように、**よい分担**は、ただ仲よくするためではなく、一人一人の力を生かして**全体の目的**に近づくためにある。だから私は、希望、得意なこと、**目的**を結びつけて**役割**を決めたい。

行事準備の役割分担で400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、希望だけで役割を決めず、目的や条件を整理して、納得できる分担を考えている。

4. 自分の例

私も、行事準備の役割分担を使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

必要な仕事を分け、希望と得意なことを目的に合わせて整理する。

穴埋めで声に出す

1. 他者差解型の穴埋め

希望、得意なこと、不安、役割を整理する問題。

_____を決めるときは、希望だけでなく、_____を_____すると、_____に近づく。

答え: 目的や得意なこと / 納得できる分担 / 役割 / 整理

2. 基本型の穴埋め

目的に合う方法を選ぶ問題。

_____は仲よくするためだけではなく、一人 _____に近づくためにある。

答え: 一人の力を生かして全体の目的 / よい分担

3. 自分の行動型の穴埋め

行事、委員会、班活動へ転用する問題。

私は必要な仕事を分け、_____を聞き、_____で確かめたい。

答え: 友達の希望と得意なこと / 目的に合う役割分担を表

弱い文を強い文にする

言い換え表

弱い: 行事でみんなと協力したいです。

強い: 必要な仕事を分け、希望と得意なことを目的に合わせて整理する。

行事準備	委員会 / 班活動 / 係活動
準備する、伝える、確認する	調べる、まとめる、発表する / 作る、運ぶ、見直す
得意なことや不安なこと	理由や条件 / 困っている点 / やってみたいこと
希望、得意なこと、目的	意見、理由、条件 / 役割、時間、目的

バスケ練習ノート

失敗や違和感を材料にする

見えにくい変化を見る

他者と考える

本文にこの言葉が出たら使いやすい: 練習 / 記録 / フォーム / 声かけ / 次の工夫

どんな本文で使う？

スポーツ、練習、試合、ミス、フォーム、声かけ、チームでの動きが出る文章。

使わないとき

本文に練習、失敗、記録、他者の動きがなく、読書や言葉そのものが中心のとき。

まず覚える文

このことから、私は上達するには、ただ練習量を増やすだけでなく、失敗した場面を見直し、次に直す動きを一つ決めることが大切だと考えた。

点が入りやすいところ

本人の経験を、記録、分析、他者理解、次の行動に変えられる。

同じネタでも、問いで3つに変える

1. 自分の行動型

自分の行動につなげる型

学校生活で、いつ何をどうするかまで書くときに使う。

このお題なら:「学校生活でどう生かすか」と聞かれ、スポーツや練習に置き換えられる問題。

使う文: 私はバスケの練習で、シュートが入ったかだけで終わらせず、踏み切る足やボールを置く位置を一つ記録し、次の練習で直す動きを決めたい。

2. 変化強調型

前と後で考えが変わる型

はじめはどう考え、あとで何に気づいたかが見えるときに使う。

このお題なら: 人物が結果だけを見る考えから、過程を見直す考えへ変わる問題。

使う文: 本文の人物は、初めは結果だけを気にしていたが、動きや原因を見直すことで、次に何を変えるか考えられるようになった。

3. 共通点出し型

文章1と文章2の同じところを書く型

文章1も文章2も「何をしたか」が似ているときに使う。

このお題なら: 二つの文章がどちらも、記録や振り返りから次の工夫を決めている問題。

使う文: 二つの文章に共通するのは、結果だけで判断せず、途中の動きや理由を見直して、次の行動を具体的に決めている点だ。

400字の後半に入れる文

私もバスケの練習で、シュートが入ったかどうかだけを見て終わらせないようにしたい。たとえばレイアップが外れたとき、走る速さ、踏み切る足、ボールを置く位置のどこでずれたのかを練習ノートに一つ書く。また、試合形式の練習では、自分がボールを持っていないときに味方がどこへ動いたか、声をかけられたかも振り返る。次の練習では、直す動きを一つ決めて試し、前よりよくなったかを比べる。本文のように、結果だけでなく過程を見直せば、失敗は落ち込む材料ではなく、次のプレーをよくする手がかりになると考える。

バスケ練習ノートで400字にする

400字はこの5つの箱で作る

1. 文章1の根拠

文章1では、____が____して、____に気づいた。

2. 文章2の根拠

文章2では、____が____して、____を考えた。

3. 共通点

二つに共通するのは、結果だけを見て終わらず、動きや相手の様子を見直して、次に変える行動を決めている点だ。

4. 自分の例

私も、バスケ練習ノートを使って、本文と同じ考えを学校生活で生かす。

5. 次にする行動

外れた結果ではなく、フォーム、判断、声かけのどこを直すか一つ決める。

穴埋めで声に出す

1. 自分の行動型の穴埋め

「学校生活でどう生かすか」と聞かれ、スポーツや練習に置き換えられる問題。

____で、シュートが入ったかだけで終わらず、____し、____を決めたい。

答え: やボールを置く位置を一つ記録 / 次の練習で直す動き / 私はバスケの練習 / 踏み切る足

2. 変化強調型の穴埋め

人物が結果だけを見る考えから、過程を見直す考えへ変わる問題。

本文の人物は、____結果だけを気にしていたが、____で、____られるようになった。

答え: 動きや原因を見直すこと / 次に何を変えるか考え / 初めは

3. 共通点出し型の穴埋め

二つの文章がどちらも、記録や振り返りから次の工夫を決めている問題。

二つの文章に____のは、結果だけで判断せず、____を見直して、____だ。

答え: を具体的に決めている点 / 途中の動きや理由 / 次の行動 / 共通する

弱い文を強い文にする

弱い: バスケットをもっとがんばりたいです。

強い: 外れた結果ではなく、フォーム、判断、声かけのどこを直すか一つ決める。

言いかえ表

バスケットの練習	発表練習 / 係活動 / 掃除当番
レイアップ	シュート / パス / ディフェンス
踏み切る足、ボールを置く位置	声のかけ方 / 判断した理由 / 動き出すタイミング
次のプレー	次の発表 / 次の係活動 / 次の話し合い